

夏休みが終わり、新学級が始まります。高校1年生、2年生、3年生としての夏休みをそれぞれ皆さんはどのように過ごしたのでしょうか？

この夏休み期間中、全国各地で記録的な暑さが続きました。8月8日には宮崎県の日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が起き、気象庁から、大規模地震が発生する可能性が普段と比べて高まっているとして「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発表されました。そして、この一週間は、迷走した台風10号に伴う大雨による被害があるなど、私たちの生活に関わるようなさまざまな出来事がありました。皆さんの周りでは、健康上の被害や家屋の被害などは無かったですでしょうか？皆さんが健康に、そして安全に、充実した夏休みを過ごすことができたのなら、私たちにとっても一安心です。

一方、この夏休み中には、皆さんもご存知の通りパリ・オリンピックという世界的な規模の一大イベントが行われました。そして現在はパラリンピックも開催されています。日本人選手も含め、さまざまな国のアスリートが活躍をし、活躍をしています。その活躍ぶりに対して、連日のように声援を送った人も多かったのではないのでしょうか？

ところで、皆さんは、「雲外蒼天」という言葉を知っているのでしょうか？

この言葉は、今回のパリオリンピックに出場し、卓球女子団体で銀メダルを取った平野美宇選手が、今年の正月に書き初めとして書いた言葉として新聞で紹介されていました。

「うんがいそうてん」、四字熟語です。

どのような漢字を書くとおもいますか？

隣の人と少し話し合ってみましょうか？

この言葉のそのままの意味は、「雲の外側には、青空が広がっている」ということになります。

そう聞くと、どのような漢字が充てられているのか、わかるのではないのでしょうか？

「うん」は空に浮かぶ雲、「がい」は外、「そう」はくさかんむりに倉（くら）と書いて、青さを意味する蒼、そして「てん」は天空の天です。

文字通り「雲の外側には、青い空が広がっている」という様子を表しますが、それが転じて、「困難を努力して乗り越えた先には明るい未来がある」、「試練のさきには、素晴らしい結果が待っている」という意味を持った四字熟語として使われます。平野選手のように、この言葉を座右の銘とするアスリートも多いようです。

この「雲外蒼天」と同じような意味をもった言葉として、「雲上快晴」という言葉があります。

こちらは、民間航空会社の名パイロットとして知られた石崎秀夫氏の著書にある言葉です。

地上ではどんよりと雲が垂れ込め、雨が降っていたとしても、そこから飛び立ち、広がる雲を通り抜け、雲の上に出る。すると、そこはいつでも快晴で、真っ青な空、そして真っ白な雲海が広がっている。その雲の上の劇的ともいえる様子を表す言葉です。

つらいことをやり遂げたその向こうには、きっと良いことが待っている。自分を前向きな気持ちにさせてくれる言葉だと、私は思っています。

私たちの人生は、必ずしも晴れてばかりではありません。残念ですが、自分にとって良いことばかりは起きません。時には雨が降り、逆風も吹きます。困難に直面したり、辛いことに会ったりもします。しかし、たとえそのようなつらい状況であっても、自分を信じて努力を続けていく。あえて雲の中に飛び込み、それを突き抜けて行く。するとその向こうには、きっと明るい将来が開けていく。

そう信じて、人は、人生を常に前を向いて歩いていくのだと思います。

「目が前向きについてるのはなぜだと思う？ 前へ前へと進むためだ！」

漫画「ドラえもん」の中で、先生がのび太くんを励まして言うセリフです。

君たちには、たとえ困難に出会っても、前向きな気持ちを持って進んでいく人であって欲しい、勇気をもって「みらい」に向かう人であってほしい、そう願って、新学期の始めにあたり、「雲外蒼天」そして「雲上快晴」という言葉を贈ります。

2学期には、1年生、2年生、3年生、それぞれにとって大切な学期です。はぐま祭などの大きな行事もあります。

前へ前へと進む、充実した2学期にしてください。